

デザイン経営を実践する

#ブランド

#新事業展開

#組織作り

#イノベーション



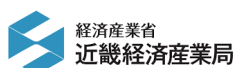
関西の地元企業と共に事業者のアイデンティティに根ざしたデザイン経営で実績をあげてきたSASI。
苦しい時も経営者に伴走するスタイルで変わらない価値観であるアイデンティティから発露する未来をデザイン経営で実現するプログラム。



関西の中小企業6社に対して、デザイン経営のセッションやデザインワークを実施。

中小企業に最適なアイデンティティ型デザイン経営の概要を学び、実践的かつ持続的なデザイン経営の基礎を実践する。6社がデザイン経営の実践によって、変わりゆく様を示し、結果を出すことで「魂(アイデンティティ)から発露するデザイン経営」を関西に浸透させるための事業。

主催



企画 / 運営



協力

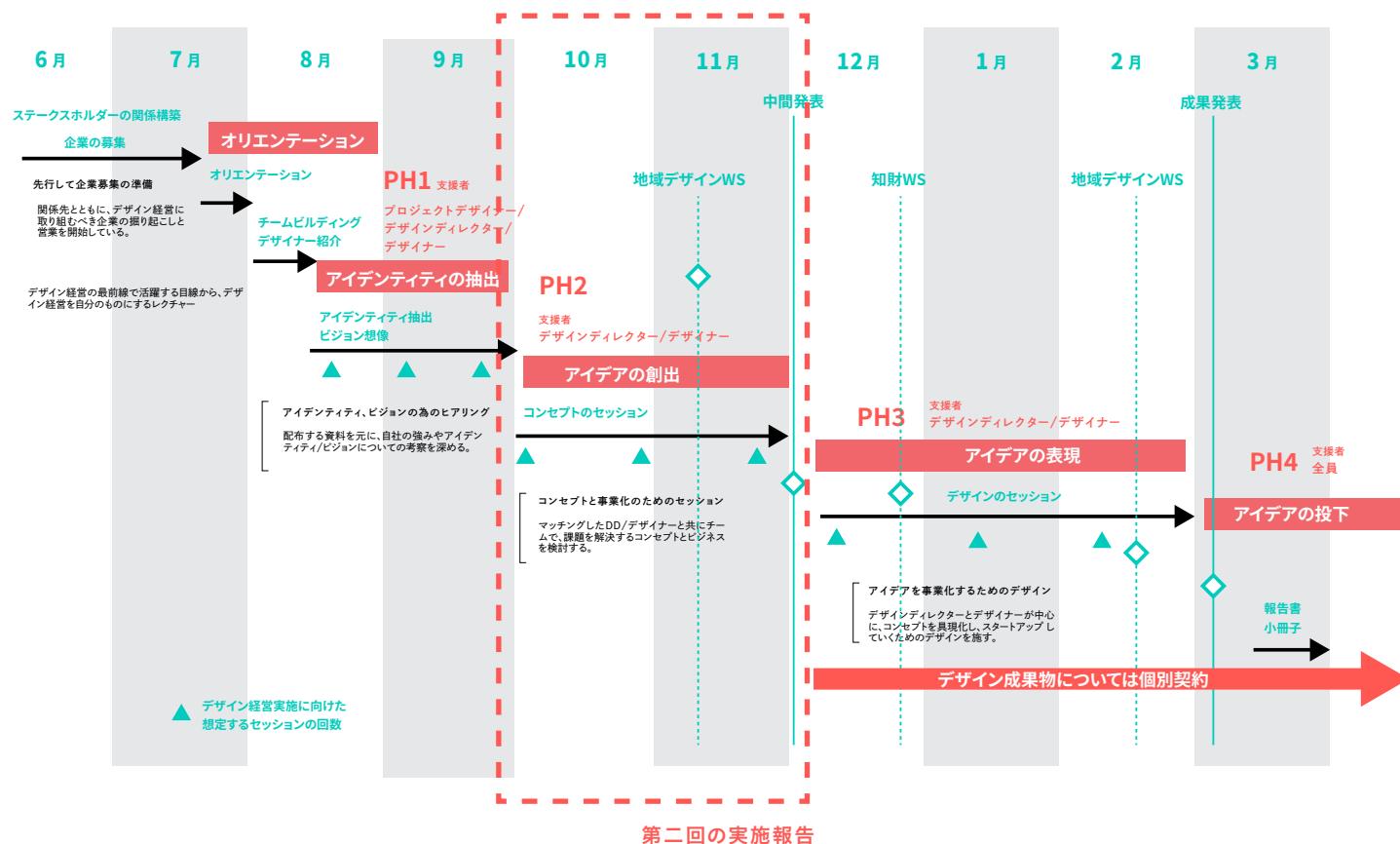


魂にまでしみた、自分自身のビジネスモデルとは？

ビジネスモデルが老朽化してきている中で、新たなビジネスモデルを持って価値創出していくには、「試行錯誤」と「市場創造」が必要となります。ビジネスモデルを成り立たせるコンセプトや表現方法は、まだまだ仮説であるからこそ、その仮説検証たる試行錯誤を何度となくやり続け、時代が変容する中において「自分が欲しい商品/サービス＝自分が初めての顧客」であるところから生まれた市場創造を行わなければならないと言えます。

だからこそ、自分の変わらない価値観としてのアイデンティティから発露したビジネスモデルを探ることが重要であり、PH2はそれをチームで具現化するフェーズです。

事業実施内容



共に取り組む仲間と、セッションをする。

事業の強みだけでなく、パーソナルな体験や経験など洗いざらいヒアリングを行い、アイデンティティ抽出とビジョン創造を行うセッションを重ねて、その後のコンセプト策定を行う中で、その渦中にある事業者の方の頭の中は、「今どこにいて、どこに向かっているのか?」ということがよくわからない状況にあることが多いです。

だからこそ、このフェーズを経て、先に進んでいる関西デザイン経営推進事業に参加していた1期生をお呼びし、当フェーズ段階時に感じていたことや、それがどのような効果を出しているのか?などをお聞きする地域デザインワークショップを行いました。デザイン経営を単なる費用対効果としてみるのではなく、アイデンティティから発露する施策が、組織や人に及ぼす影響などを生々しく話してもらうことで、このフェーズがいかに大切かを知っていただけるワークショップとなりました。

また、ここまで個社ごとに進んでいる各社の取り組みの経過報告を参加事業者に共有することで、自社や他社の進捗を確認し、さらに進めるための意欲を高める中間発表会を開催しました。



PH1

アイデンティティの抽出

PH2

アイデアの創出

PH3

アイデアの表現

アイデンティティから発露した 自分だけのビジネスモデルを構築

マッチングしたディレクターとの「創造的対話」によって見出した、自分自身の原体験や揺るぎない価値観＝アイデンティティ。その想いを根拠として、Ph2では自社が抱える課題を解決するためのコンセプトとビジネススキームを検討します。

地域デザインワークショップ

デザイン経営に取り組む事業者とセッションをする

アイデンティティ型デザイン経営を実施する 実践経営者に学ぶ。

今回のワークショップは、アイデンティティ型デザイン経営による伴走支援の全体像を、実践経営者の体験談を元にイメージしていただくことを目的として実施。経営者本人から抽出されたアイデンティティが形づけられ、そして新規事業として立ち上がっていくその軌跡を、昨年度の関西デザ経に参加された経営者2名をゲストに招き、対談形式のセッションとして学んでいただきました。

ゲスト

水田 太郎 株式会社水田製作所

兵庫県明石市を拠点に、電気・電子機器の部品、完成品の設計・組立をワンストップで行っています。また、エレクトロニクス分野で培った知見と技術を活かし、細胞・空間デザイン・プロセス開発・一次産業などの分野で新規事業を展開中です。

小西 康晴 生野金属株式会社

大阪府堺市で、18リットル缶や一般缶の製造、ブリキ板、薄鉄板の加工を行っています。自社の技術やノウハウを活かし、シールラベルが不要な18リットル缶「Labelless®」をはじめ、さまざまな新規事業も展開しています。

2022.11.10 PROGRAM

13:30	開場
14:00	開会
14:05	実践経営者のデザイン経営実践の軌跡
14:45	アイデンティティ型デザイン経営についてのセッション
15:25	質疑応答
15:55	閉会

中間発表@中之島美術館

アイデンティティ型デザイン経営に取り組む仲間とセッションする

中小企業のアイデンティティから 発露するデザイン経営を実践する。

これまで、PH1において各事業者は「アイデンティティの抽出」に取り組んできました。中間発表では、ディレクターとの「創造的対話」によって発露した自身のアイデンティティとビジョンをプレゼンテーションしました。また、同じくデザイン経営に取り組む事業者同士のクロストークも実施し、お互いに刺激を与え合うセッションを行いました。



2022.11.25 PROGRAM

13:00	開会
13:15	Section1 豊開発株式会社 常磐精工株式会社 クロストーク
14:15	Section2 アルスコオペレーション株式会社 進和建設工業株式会社 クロストーク
15:15	Section3 アサヒ産業株式会社 株式会社神田組 クロストーク
16:20	閉会

各事業者進捗報告

デザイン経営に取り組む事業者とセッションをする

進和建設工業株式会社

Q.1 ビジョンを見据えて、
解決すべき具体的な内容はなにか？

これまでの新築マンション建設だけでは収益性の問題があるため、単なる「建物」の建設だけではなく「まちづくり」を主導していく存在を目指す必要があり、その方法論を見出すこと。

Q.2 その課題をどのように
解決しようとしたか？

「建物」だけを作るのではなく、建物を含むまちづくりを主導していくブランドを目指す。そのために、新規事業としてコミュニティ型リノベーション事業でまちそのものの価値を高めるビジネスを展開する。

豊開発株式会社

Q.1 ビジョンを見据えて、
解決すべき具体的な内容はなにか？

「建設業界」という、漫然と漂う業界イメージの悪さから、慢性的な人材不足に陥ってきたため、数多くのセッションを通して、ミッション・ビジョン・バリューを再考しこれからの戦略を壁打ちすることでこの状況を脱却すること。

Q.2 その課題をどのように
解決しようとしたか？

既存の建設事業を深掘りし、自社が提供している価値を改めて見つめ直すとともに、仮囲いの活用など自社にしかできない方法でのアートプランニングによる新規事業との掛け合わせで業界イメージの刷新を目指す。

アルスコーポレーション株式会社

Q.1 ビジョンを見据えて、
解決すべき具体的な内容はなにか？

顧客が困っている課題を、「切れ味」という方法で解決してきたが、これまで以上に価値を生み出すためには、現在の製品開発プロセスの枠にはまらず、自由で柔軟な新たな思考方法が必要。

Q.2 その課題をどのように
解決しようとしたか？

アート思考による、社員一人一人の「自分ごと」なもののづくりを実現するための社内制度や環境を構築する。そのためにワークショップを実施し、新しい「アルスのものづくり」にチャレンジする。

株式会社神田組

Q.1 ビジョンを見据えて、
解決すべき具体的な内容はなにか？

自社が提供している工場営繕はニーズがあり、商談案件が増加する兆しはあるものの、人材不足が課題。加えてコロナ禍での自社のあり方の再定義・ビジョンの組織浸透が十分でないところに課題があった。

Q.2 その課題をどのように
解決しようとしたか？

創造的対話によって抽出されたアイデンティティと強みを起点とした、インナー/アウターブランディングを実施。さまざまな外的要因にも揺るがない組織づくりで、再出発を図る。

常磐精工株式会社

Q.1 ビジョンを見据えて、
解決すべき具体的な内容はなにか？

先代が展開してきた看板事業によって会社が成長してきたが、今後縮小していく市場であることが想定される。そのようななか将来的に収益の軸となる「事業を創出すること」が課題。

Q.2 その課題をどのように
解決しようとしたか？

「ものづくり」を中心としてさまざまな人を巻き込み価値を提供するために、社内外のリソースを活用した、事業を生み出すプラットフォーム構築に向け進み出している。

アサヒ産業株式会社

Q.1 ビジョンを見据えて、
解決すべき具体的な内容はなにか？

繊維業界の大量廃棄などの問題や縫製業界の担い手不足といった業界全体の課題に加えて、業界内での差別化を意識した営業戦略と新事業の展開が必要。

Q.2 その課題をどのように
解決しようとしたか？

自社のアイデンティティを探索していくなかで、「顧客のアイデンティティをユニフォーム化する」という新たな事業の土台となるコンセプトを見出し、新ソリューションとして次のステージに踏み出す。



地域デザインWS vol2の様子

次回予告

事業の流れ

コンセプトやデザイン制作といった、具体支援の実施

地域デザインWS vol.2

成果発表会

発露したアイデンティティやビジョンを達成するための具体的なコンセプトメイクや社内WSの開催など。また成果発表会へ向けた伴走支援の実施。